

## 2.2 調査内容

表面遮水壁を 10mメッシュで区画し、区画ごとにスケッチおよび写真撮影を行って、損傷の位置および状況を把握した。

## 2.3 調査結果

### (1)表面遮水壁損傷状況

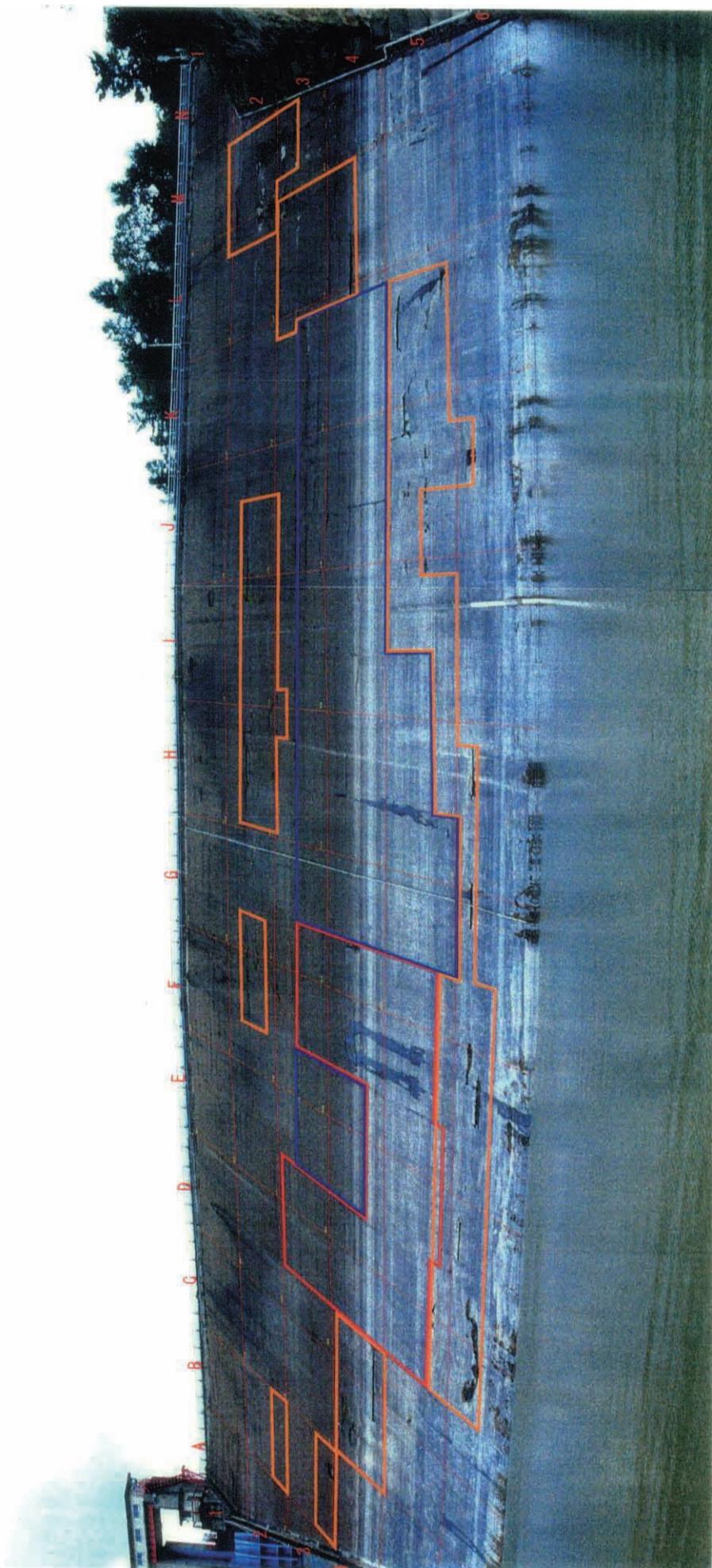
表面遮水壁の損傷状況調査結果を図 2.3 に、全景写真を写真 2.1 に示す。これらには、調査メッシュ、既往補修箇所もまとめて表示している。また、損傷箇所測定値一覧表を表 2.3 に示す。損傷状況総括図は、全メッシュの調査カルテを取りまとめて作成した。調査カルテの例を表 2.3～4 に示す。

平成 1～2 年の補修箇所には大きな損傷は認められず、初期施工箇所に大きな開口、ずり落ち等が確認された。亀裂幅 20cm 以上の損傷が認められるグリッドは 27 箇所であった。

### (2)補修工法の提案

補修工法の比較表を表 2.5 に示す。平成 1～2 年の補修箇所には大きな損傷は認められなかった実績を重視して、今回の補修も同じ工法(グラベルマスチック+ズレ抑止工、中間排水層)で実施するものとした。遮水壁の構造を図 2.4 に示す。





凡例

S=525.0m <sup>2</sup>	: 平成元年度施工範囲
S=789.0m <sup>2</sup>	: 平成2年度施工範囲
S=1,088m <sup>2</sup>	: 今回提案する補修範囲

皆瀬ダム表面遮水壁全景写真（平成13年9月撮影）

写真 2.1 表面遮水壁全景写真